

恒例の野草展が始まりました

22日、区立大田黒公園（荻窪3-33-12）では、毎年恒例となった野草展が始まりました。この野草は、杉並野草の会のメンバーが丹精込めて育てたもので、350鉢ほどが並んでいます。展示会は24日までで、野草の種の配布も行われています。

22日、春の温かな陽気に恵まれた大田黒公園の会場には、区内外から多くの来場者が訪れていました。多くの方が、この時期恒例となった野草の展示を楽しみにしていて、可憐に咲く野草の花をカメラに収めたり、会のメンバーから育て方のコツを聞き熱心にノートを取る姿も見られました。

この展示を行っているのは、杉並野草の会[金順一（こんじゅんいち）会長（80歳）]です。結成は昭和51年で、今年は40年の節目の年となり、この展示も35回を数えます。こうした長年に渡る活動が、多くの来場者を呼ぶ結果につながっています。しかし、70名ほどのメンバーの平均年齢は73歳となっていて、若い方の入会を促すことも、この展示会の大きな目的の一つとなっています。

もう一つの大きな目的は、もちろん野草の会の会員が、日頃から丹精を込めて育てた野草を多くの方に鑑賞してもらい、楽しんでもらうことです。今回の展示は350鉢ほどで、スマレの仲間やムサシアブミ、ウラシマソウ、ユキモチソウなどの定番の野草が並ぶほか、ダイモンジソウやヤクシマショウマなど、屋久島固有種の展示が行われています。屋久島の固有種は、温暖で多湿の地域にも関わらず、本州などのものと比較すると小さいことが特徴だとメンバーは説明していました。今年は、結成40年を記念して作ったおそろいのエプロンで、来場者のお迎えをしています。



第35回杉並野草展

【開催日時】4月22日(金)～24日(日) 午前10時～午後4時(24日は午後3時まで)

【場所】杉並区立大田黒公園(杉並区荻窪3-33-12)

【入園料】無料 【その他】70種ほどの野草の種を希望者に配布

【問い合わせ先】

総務部広報課：03-3312-2111